

平成27年1月1日

第79号

# 鵜戸

## 謹賀新年



0987-0101

宮崎県日南市宮浦3232番地

0987-29-1001 FAX0987-29-1003

鵜戸神宮ホームページ

<http://www.udojingu.com/>

発行者兼編集者  
鵜戸神宮社務所

# 謹んで新春のお慶びを 申し上げます



宮司 本部 雅裕

平成二十七年の始めにあたり鶺鴒戸の宮居より、御皇室の愈々のお栄えと、氏子崇敬者の皆様の御健勝を心からお祈り申し上げます。

日頃皆様には、全国各地から当神宮に厚い崇敬の誠を捧げていただき寔に有り難く、厚く御礼申し上げます。

さて、宮崎県では三年前の平成二十四年から「記紀編纂一三〇〇年」の記念事業を種々行つております。これまで当社報でも、鶺鴒戸神宮に関する「記紀」の話を紹介してきました。しかし、ご祭神について「記紀」に登場しない話も数多く残されてゐて、大事に語り伝えられてきました。その一つが前号で取り上げました「鶺鴒戸縁記」といふ古文書です。今回はそれに続き、能「鶺鴒羽」についてご紹介します。この能は、昨年十月に宮崎県延岡市で上演されたことにより、私も改め

て詳しく知ることとなったものです。

それは、「第十八回天下一薪能」が開催されるにあたり、主催者側から鶺鴒戸の御祭神にまつはる「鶺鴒羽」のお話を聞く機会があつたからです。この薪能は、慶長八年から延岡を領した高橋、有馬、三浦、牧野、内藤の歴代藩主が残して今も地元には伝はる多くの能面を使って舞はれます。毎年、延岡城址の石垣を背景に開催されるものですが、今回はあいにくの台風接近の影響もあり、大事をとつて室内での公演となりました。

当日は、まづ能「猩々」が人間国宝の能楽師片山幽雪さんと地元の能楽教室に通ふ小中高校生四人によつて演じられました。次に、狂言「因幡堂」が片山七五三さんによつて上演され、最後に能「鶺鴒羽」が、観客一三〇〇人を前に披露されました。

これは、神話「海幸彦・山幸彦」を能曲にした物語で、鶺鴒戸神宮が舞台です。内容は、比叡山の恵心僧都一行が鶺鴒戸参詣に訪れると、鶺鴒の羽で葺かれた産屋の御殿は、片方だけしか葺かれてゐません。僧都がそこにゐる二人の海女に、片方の屋根について訳を尋ねると、海女は神社の祭神である「鶺鴒葺不合尊」の誕生と、

屋根が葺き終へないうちにお生まれになつたその命名の由来を話してくれます。その後舞台には、童女となつた豊玉姫が現れます。姫を演じる十世片山九郎右衛門さんが、干珠の玉をかざして海が一気に引いていくさまを、また満珠の玉をかざしては逆に潮が満ちていくさまを、優雅に、そして迫力のある舞で見事に表現してくれました。

またこの「鶺鴒羽」は、日向神話の分かりやすさもあり、世阿弥が作曲した当初から人気の曲であつたやうです。しかし、鑑賞してゐた当時の室町時代の六代將軍足利義教が暗殺されたため、後に徳川の世になり五代將軍綱吉がそのことを忌み嫌つて、上演禁止とした逸話も残つてゐます。以来、平成三年に復曲されるまでの永い間、表舞台から消えてゐたといふ曰く因縁つきの興味深い話です。

上演当日は、この「鶺鴒羽」の舞台鶺鴒戸神宮と、地元延岡の今山八幡宮から、早朝にそれぞれの忌火が切り出され、行灯に移された浄火が狩衣姿の二人の宮司の手によつて舞台の両袖に点されて開演となりました。

このやうに実際には「記紀」に記載されてゐない話



「鶺鴒羽」の一場面



忌火の切り出し

も、この能「鶺鴒羽」や「鶺鴒戸縁記」などのやうに、分かりやすい形で御祭神鶺鴒草葺不合尊の御由緒を広く一般に伝えてきたこともまた重要で、今後とも大切に守り伝えていく必要があると存じてゐます。どうぞ今年も、神代が今の現に生きる鶺鴒戸神宮にぜひお揃ひでご参拝下さい。

# 各種祭典

## 夏越の大祓式

六月三十日午後四時より大祓式「夏越の大祓」を斎行。これは日常生活のなかで知らずにふりかかっていた大小の災難や穢れ（けがれ）を祓ひ清め、明るく平穏な日々を送るための大事な年中行事のひとつです。

## 抜穂祭

超早場米の産地であり、全国で一番収穫が早いことで有名な日南市に鎮座する当神宮の御神田で、七月十七日午前十時三十分より、抜穂祭を斎行。田長の「刈りませ」の合図のもと、早乙女が刈り入れ、続いて地元児童と氏子により二畝を収穫しました。



## 新嘗祭〔新穀感謝祭〕

朝夕の冷え込みも増し、日中も肌寒くなり始めた十一月でしたが、二十三日は穏やかな天気となり、午前十時三十分より責任役員、氏子総代、崇敬者総代をはじめ約百六十名の参列のもと、盛大裡に斎行されました。この祭典は、今年収穫された新穀や生産物を神々に捧げ、神々のご加護によつて生産出来たことを喜び、産物を得られたことに感謝する祭儀です。

また、鵜戸小中学校三・四年生の生徒十名が昭和五十年より受け継がれてきた子供神楽を奏舞し、華やかな祭典となりました。

子供神楽奉仕者

- 榊の舞 中原笙汰・高橋祐生 ○猷穀の舞 外山礼堂
- 根本天祐・村中郁斗 ○エビスの舞 新坂樹莉・高嶺楨那
- 鈴の舞 山根麻椰・池田朱里・蛭田和香



## 明治祭・秋の縁日大祭・誕生感謝祭 舞楽面奉納奉告祭

十一月三日午前十時三十分斎行。このお祭りは古来、旧暦二月の祭礼日に農業、商工業に従事する人々が祈願し、大勢の参拝者で賑はつたと伝えられてをり、この事を奉祝するため、春と秋の年二回行はれておます。祭典後、舞楽「納曾利」・「豊栄の舞」・「鵜戸さん獅子舞」を奏舞し、また、今年も弓削孝氏に「納曾利面」を奉納頂きました。



鵜戸さん獅子舞



納曾利面



豊栄の舞



弓削氏に奉納頂いた面で納曾利奏舞

## 神嘗奉祝祭 神嘗祭遙拝式

十月十五日から十七日に伊勢の神宮で、「神嘗祭」が斎行されました。これは皇室のご繁栄と国家の安泰、五穀の豊穰、国民の平安を祈る祭儀で、当神宮でも奉祝する祭典を執り行ひました。



献饌



宮司祝詞奏上

## 海上自衛隊掃海隊安全願祭

十一月十八日、掃海業務支援隊司令の、田口慶明一等海佐他三十六名が、隊員の健康・任務成功の祈願に来宮されました。毎年この時期に油津港に寄港し、国防に努めるべく、日向沖で訓練が行はれます。



## 侍ジャパン女子代表参拝

九月一日から七日まで第八回IBAF女子野球ワールドカップ宮崎大会が開催され、侍ジャパン女子代表メンバーが、九月四日に当神宮へ参拝しました。みごと四連覇を達成。今後のさらなる活躍を期待します。



野球日本代表侍ジャパン女子代表選手の皆さん

## 奉納

鵜戸神宮の巻族である「兎」の像を奉納いただき、奉納奉生祭を斎行致しました。参道に、愛くるしい姿でお待ちしてをりますので、ぜひご覧下さい。奉納者は左記の通りです。

- (株)こく 横山 正様 幸子様
- (有)落合石材 落合 孝章様 東志子様
- 坂本不動産 坂本 哲夫様 百合子様
- 日本バイオ フーズ(株) 代表取締役会長 四田 美利様





# 未年絵馬作成

今年の干支は「未」で、題字は「正直清浄」です。絵馬の掛け替へは、毎年十二月二十七日煤払祭に併せて行ひ、翌年の十二月まで設置してをります。ご参拝の節にはどうぞご覧下さい。



この門松は、旧飢肥藩で代々受け継がれている少し変はった形をしてをります。新しい年には年神さまが宿ると言はれ、お迎へするために縁起をとり入れた伝統飾りであります。つるは広くしつかりと根をはるやうに、縄は絆を強め笑顔絶えない生活を、また、縄のワラは向かつて右側より七本・五本・三本という縁起のいい数の順で下がつてゐます。



# 命名

長崎県 松本 稀愛 様  
 (平成二十六年七月十四日生)  
 東京都 長井 創資 様  
 (平成二十六年五月二十四日生)  
 鹿児島県 森重 拓十様  
 (平成二十六年十月十六日生)

## ご結婚おめでたう ごぞいます

群馬県 高橋 裕貴 様  
 唐澤 麻衣 様  
 (二月二十二日)  
 東京都 照沼 大 様  
 山口 晴彌 様  
 (三月三日)  
 宮崎県 小玉 幸太郎 様  
 宮崎 詩織 様  
 宮崎県 二木 真吾 様  
 河野 あさこ 様  
 (小玉様、宮崎様と二木様、河野様は三月三十日に、第二十八回シヤンシヤン馬道中再現に参加され、鵜戸神

宮で新婚夫婦正式参拝を齎行。二木様と河野様は再現のあと、結婚式も挙げられました。

宮崎県 橋口 空 様  
 堀内 由希子 様  
 (六月二十八日)  
 宮崎県 雀ヶ野浩太郎 様  
 竹村 美紀 様  
 (十月十一日)  
 宮崎県 山下 和也 様  
 中村 江里 様  
 (十月二十六日)  
 宮崎県 大橋 維辰 様  
 渡邊 絵美 様  
 (十一月二日)  
 宮崎県 高田 茂 様  
 坂下 ゆき 様  
 (十一月二十九日)  
 宮崎県 山下 由貴 様  
 川上 真美 様  
 (十二月七日)



# 編集後記

○社報七十九号をお届けします。

○表紙の写真は、初冬の朝日差す御本殿です。日毎一日の始まりに、鵜戸神宮を遙拝されてみてはいかががせうか。

○バス停留所の「鵜戸神宮入口」の名称が「吹毛井」と変更になりました。また、最寄りには「鵜戸神宮」停留所です。

○十二月初旬、ヒヨドリが鵜戸山に飛来しました。冬の風物詩となつてをります。

○新しい年が良き年でありますやう、皆様のご多幸を鵜戸の宮居よりご祈念申し上げます。

(中原)

